

関係各位

兵庫県病害虫防除所長

令和6年度病害虫発生予察防除情報 第4号を発表します。

なし（青なし）園地で黒斑病の発生を確認しています。今後、さらに発病の増加が懸念されますので、園地での発生状況を定期的に観察し、防除対策を徹底するようご指導願います。

令和6年度 病害虫発生予察防除情報 第4号 ナシ黒斑病の防除対策について

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 1 対象作物 | なし（青なし） |
| 2 病害虫名 | 黒斑病 <i>Alternaria kikuchiana</i> |
| 3 発生地域 | 但馬地域 |
| 4 発生状況 | |

- (1) 令和6年5月27日に北部農業技術センターが実施した病害発生調査（慣行防除園）において、発病葉率は7.5%（短果枝）、0.9%（発育枝）であった。これは平年値3.2%（短果枝）、0.5%（発育枝）と比較して、それぞれ約2.3倍、1.8倍多い発生である。また、発生圃場率（短果枝）も100%と高く（平年値54.0%）、広域に発生が見られる。
- (2) 今期は、冬季から温暖で定期的な降水があったことから本病の発病に好適な条件となったと考えられる。

5 今後の発生

6月の近畿地方の1カ月予報によると、気温は1週目は平年並～低く、2週目以降は高い、降水量は平年並～多いと予想されている。今後、梅雨入りを控え、本病の感染・蔓延に好適な条件が継続する可能性があり、発病の増加が懸念される。

6 本病の被害と発生生態について

- (1) 本病は葉、果実、新梢などに発生する。葉の初期病斑は小さな黒色斑点で、次第に黒色の不整形病斑を形成し（写真1）、激しく発病すると落葉する。生育中の果実に発生すると亀裂を生じ落果する。成熟果では輪紋状の病斑を形成し、軟化腐敗する。
- (2) 病原菌の越冬伝染源は枝病斑、病芽、落葉等で、風や雨により胞子が飛散して伝染する。生育期間の伝染源は、主に葉、果実上の病斑に形成された胞子で、二次伝染を繰り返す。
- (3) 病原菌の胞子形成適温は20～25℃である。感染後の侵入は15℃前後から始まり、適温は28℃である。梅雨期の高温多湿条件で発病が急増する。

7 防除対策について

- (1) 園地の排水が悪いと発病を助長するので、明きょ等の排水対策を十分に行うこと。また園地や樹冠内部の風通し・採光を良好にする。
- (2) 生育状況を踏まえた適正な施肥管理を行う。窒素過多は発生を助長する。特に夏肥が遅効きすると新梢の二次伸びが多くなり、枝の発病、ボケ芽の発生が多くなるので、施肥時期にも注意する。
- (3) 園地を定期的に見回り、落下した果実・病葉は園外に持ち出し処分する。
- (4) 梅雨期は発病蔓延期にあたるため、薬剤散布間隔を短くし、防除を徹底する。梅雨期以降は、十分な量の薬液を丁寧に散布する。
- (5) 盛夏期及び秋期（9～10月）にも発病が増加するため、定期的に薬剤散布を行う。
- (6) 耐性菌の出現を回避するため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (7) 防除薬剤については、地域の防除暦や病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

「7 防除対策について」に記載している内容のほか、兵庫県総合防除計画を参照してください。

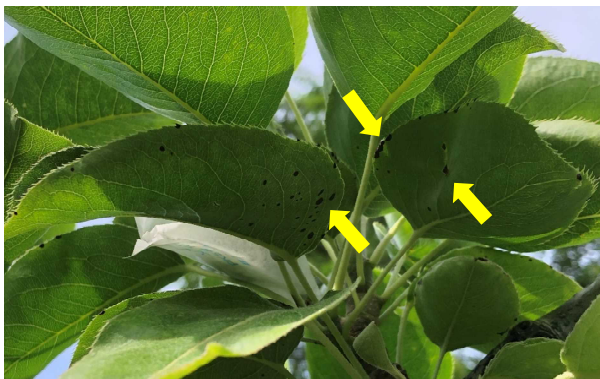


写真1 ナシ黒斑病罹病葉(発育枝)における病斑

*兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>

*病害虫・雑草防除指導指針 農薬の検索は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/nouyakusearch/hyogo>

*病害虫・雑草防除指導指針 参考資料は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222

2022年3月1日より「兵庫県病害虫防除所」X(旧Twitter)を開設しています。

発生予察情報など病害虫に関する情報を提供しますので、是非フォローお願いします。

Xアカウント (https://twitter.com/hyogo_boujoshou)

